



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2016年(平成28年)12月15日号 No.1713

目次

■ 意外な結末を迎えたロスネフチ民営化	1
■ 統計速報	8
2016年1～11月のロシアのブランド別乗用車販売台数／8	
■ モスクワほっとニュース	9
モスクワにおけるクリスマス・フェスティバル／9	
■ エトセトラ	10
月例報告会「2016年のロシア経済の総括」／10	
■ キーパーソン	10
ミルジョエフ・ウズベキスタン大統領就任／10	
■ トピックス	11
露進出の日系企業、11月時点で314社／11	
来季のサハリン航路は6～9月運航／11	
露水域での漁獲割当量1,680t増で妥結／11	
極寒の地ヤクーツクに日本の温室栽培技術／12	
日通がシベリア鉄道での一貫輸送業務を開始／12	
みずほ銀行がズベルバンクとの協力拡大へ／12	

意外な結末を迎えたロスネフチ民営化

はじめに

2016年12月7日、ロシアの石油最大手ロスネフチのセーチン社長がプーチン大統領と会談を行い、同社の株の19.5%が、スイスに本社を置く世界最大の商品取引商社グレンコアとカタールの投資ファンドカタール投資庁に売却されることが明らかになった。取引総額は105億ユーロと伝えられている。ロスネフチの民営化については、何度も延期が発表され、年内には成立しないだろうとの見通しが強く、また株を購入する可能性があるのは中国やインドの投資家だけと考えられたり、最近ではロスネフチの子会社による自社買収になる可能性が高いとも噂されていただけに、今回の結果は驚きを持って迎えられた。ロシア政府としては2017年の国家予算の赤字を補てんするために必要不可欠な取引であり、何としても成立させたいという思いは強かったはずである。

本速報では、今後のロシア経済、同国の主要産業である石油ガス分野に大きな影響を与える可能性の高いロスネフチの民営化について、これまでの経緯なども含め、ロシアメディアの報道振りをご紹介する。なお、記事は当会が独自に選定して抜粋したものであることをご了承いただきたい。